



## 青年技術士のノブレス・オブリージュ

北海道技術士センター 青年技術士協議会会長 Tsubakiya Toshio  
 技術士（建設部門） 椿谷敏雄

### 技術士のノブレス・オブリージュ

ノブレス・オブリージュとは、もとはフランスのことわざで「貴族たるもの、身分にふさわしい振る舞いをしなければならぬ」の意、すなわち高い身分に従いそれに相応しい社会的責任と義務があるとする考え方とのことです。しかしこの言葉は何も仏貴族に限らず、かつて新渡戸稲造が欧米に日本を紹介するために書いた「武士道」においても、武人階級の身分に伴う義務としてこのノブレス・オブリージュという言葉を用いています。

さて、私たち北海道の技術士の巷間で、「社会貢献」と言う言葉が意識され始めたのは、平成16年度の全国大会（北海道大会）のテーマとして掲げたときからでしょうか。その後、たびたび研修会等のテーマとしても取り上げられ、今や社会貢献は技術士の意識すべき役割、果たすべき責務と考えられてきているようです。

たしかに、技術士の2大責務の1つ「公益確保」にも謳われているように、技術を通して社会に貢献することは「技術士としてのノブレス・オブリージュ」といえるでしょう。すなわち技術士が技術の最高峰たる国家資格と標榜するのであれば、その資格に相応しい重い責任があるということを実感すべきです。

こうした当然の責務ともいえる「社会貢献」を、ことさら声高々に掲げるといっても多少気が引けるところであり、また、「はたして芽を出しているか？」と自問自答するところではありますが、ここで我が青年技術士協議会（以下、青技協）の近年の活動のご報告をさせていただきます。

### 青技協の活動経緯

青技協は、平成元年の設立以来18年間に渡り研修会等の活動を続けてきました。これらの研修会は、情報や環境などの様々な技術分野に及んでおり、また、地域振興や経済・政策関連といった社会的な視点をテーマとした内容でした（図-1参照）。こうした活動は青技協の規約にもある「相互研修による資質向上」と「会員相互の親睦活動」を目的としたもので、会員の会員による会員のための、いわば「内向き」の活動を行ってきました。



平成16年度 全国大会（北海道大会）における青年分科会の1コマ

年・月	区分	技術分野				北海道の進展	社会的視点			その他	備考	役員期
		情報関連	環境関連	農・防・環・寒	海外情勢		ア・政・経	連・交	連・交			
1989.10	総会	●									青技協設立	第1期
1990.03	恒例会											
1990.10	総会				●						千歳川放水路	第2期
1991.03	恒例会						●	●			北海道新幹線	
1991.10	総会				●							第3期
1992.03	恒例会						●	●			スタッドレスタイヤ	
1992.10	総会				●						南西沖津波	第4期
1993.03	恒例会										地球温暖化	
1993.10	総会				●						本州北海道架橋	第5期
1994.03	恒例会											
1994.10	総会				●							第6期
1995.03	恒例会											
1995.10	総会				●							第7期
1996.03	恒例会											
1996.10	総会				●						微生物	第8期
1997.03	恒例会											
1997.10	総会				●						公共事業削減	第9期
1998.03	恒例会											
1998.10	総会				●						青技協10周年	第10期
1999.04	総会											
1999.10	恒例会										プレゼン技術	第11期
2000.04	総会				●							
2000.10	恒例会											第12期
2001.04	春期研修会										連携・複合技術	
2001.07	夏期研修会										市町村合併	第13期
2001.11	秋期研修会										環境・経済	
2002.04	春期研修会										バリアフリー	第14期
2002.09	夏期研修会										リサイクル	
2002.11	秋期研修会										特区	第15期
2003.04	春期研修会										札幌駅 IRタワー	
2003.08	夏期研修会										宇宙開発	第16期
2003.11	秋期研修会										危機管理と広報	
2004.04	春期研修会										先人・サッポロビール	第17期
2004.09	夏期研修会										全国大会分科会	
2005.01	冬期研修会										青年技術士の役割	第18期
2005.05	春期研修会										日ハムファイターズ	
2005.08	夏期研修会										戦略で拓く未来	第19期
2005.11	秋期研修会										食の安全	
2006.05	春期研修会										succession 遷移	計

図-1 青技協の活動経緯（H元～H18）

### 青技協のノブレス・オブリージュ

こうした活動が、全国支部との交流や社会への「外」に向き始めた契機は、やはり平成 16 年度の全国大会であったと思われます。その前年の第 8 期の役員改選時に、青技協の活動方針を打ち出すため『融合と発信』のテーマを掲げました。これは、多様な分野、全国交流を通じて、会員相互の融合を図るのみならず、社会に向けて発信していくことを念頭に活動を行っていくことを意識したものでした。このテーマ設定が、期せずして全国大会の青年部分科会「青年技術士の役割」として大きく前進することになりました。

また、第 9 期では『発展と創造』を活動テーマに掲げて、青年技術士協議会をさらに発展させ、新しい価値を創造していくこととしました。9 期の後半である今年度では、さらに活動を活発化するため、まず、テクニカルな技術学習を目的とした「テクニカルスクール」を開校します。そして、北海道における特筆すべき技術を学び、継承していくことを目的として「北の技術を語り継ぐ」を開講し、北海道ゆかりの技術者や地域が誇る技術の発祥の地を巡るなど、さまざまなテーマと試みにより「社会に対する貢献」を形にしていくこととしています。また、青技協の天沼幹事をリーダーに、昨年度から継続した危機管理研究会では近日中に提言書をまとめる予定です。

こうした活動を通して、時代を拓いてきた青年技術士の役割、融合による相互交流の進展、社会への発信による社会貢献を実践し、新たな価値を創造していくことで「技術士としてのノブレス・オブリージュ」を果たしていきたいと考えています。

### 頼もしきかな青技協の幹事たち

このような精力的な活動は、ひとえに青技協の幹事による積極的な行動によるものであり、全てのエネルギーの源となっています。強力に幹事を引っ張っていく今野幹事長を推進力に、細かな配慮と企画力で「テクニカルスクール」を束ねる丹治副会長、持ち前の調整と活動力で「北の技術」を束ねる谷村副会長、そして全ての活動を冷静にフォローしていく正岡副会長といった青技協幹事の役員らの指導力。また、全ての幹事の「まあ、やってみましょうか」という積極的な姿勢と、「何とかしましょう」といった責任感ある行動により組織の活動が支えられています。こうした幹事達による組織力の成果であることを忘れることなく継続していきたいと考えています。感謝。

ともかくにも、全国大会における全国交流・社会発信を足がかりに、青年技術士としての果たすべき役割を、青技協の持ちうる機能を最大限に発揮することで、少しずつでも芽を出していきたいと切に願っています。



図-2 青技協の近年の活動テーマと内容

<b>会 長</b> 椿谷敏雄 (北海道)：建設
<b>副会長</b> 正岡久明 (㈱シー・イー・サービス)：建・総 谷村昌史 (北海道開発局)：建・総 丹治和博 (㈱日本気象協会) 建・総
<b>幹事長</b> 今野 亨 (㈱ドーコン)：建・総
<b>幹 事</b> 森田恵弘 (清水建設(㈱)支店)：建・総 米川 康 (明治コンサルタント(㈱))：応理 服部唯之 (㈱ドーコン)：建設 小澤直正 (JR 北海道(㈱))：建設 松沢 勝 ((独)寒地土木研究所)：建設 樋詰 透 (北電総合設計(㈱))：建設 天沼宇雄 (北海道)：建・総 古屋温美 ((有)マリンプランニング)：建・水 林 英雄 (北海道農業土木コンサルタント(㈱))：農業 原田哲郎 (㈱日水コン)：上下水道 井上涼子 (明治コンサルタント(㈱))：建設 山谷信広 (㈱ドーコン)：建設 長尾高嗣 (㈱CRCソリューションズ)：情・総 大槻政哉 (㈱雪研スノーイーターズ)：建設 田中真也 (㈱環境保全サイエンス)：農業 岡 宣克 (㈱構研エンジニアリング)：建設 佐々木勝治 (㈱地崎工業)：建・総 小山田応一 (㈱エーテック)：情報 西村一郎 (札幌市)：上下水道

図-3 青年技術士協議会幹事 (第9期)